

JUA Newsletter for Next Uro-Generation



北海道・東北地域

医学生・初期研修医のための泌尿器科News letter

はじめに

当科の簡単な歴史を紹介いたします。皮膚泌尿器科から完全に独立した後、一九五二年に故・辻一郎先生が教授に就任されました。一九八二年には小柳知彦先生が、二〇〇三年には野々村克也先生が教授就任され、泌尿器外科として一層のアイデンティティの確立、臨床重視の視点、患者本位の医療、国際化と世界に通用する独自の研究の推進を大きな柱として、今日まで歩んできています。二〇一四年十月に篠原信雄先生が第四代教授に就任、二年が経過しています。その情熱を持った人柄から生まれる診療、研究、教育の方針は変わることはありません。

当科の臨床及び研究

は、小児泌尿器科を専門とする小児班、下部尿路機能障害を専門とする神経因性膀胱班、泌尿器科領域の腫瘍を担当する腫瘍班、腎移植と血液浄化療法を担当する腎移植血管外科班の四つのグループが中心となっています。

●小児班…停留精巣、尿路感染症などの頻度の高い疾患から非常に希な先天奇形まで多数の手術や治療を手懸けています。中でも特筆されるのが、教室のメインテーマである尿道下裂に対する尿道

エコチル追加調査として北海道大学環境科学センターと共同研究を継続しております。
●神経因性膀胱（排尿生理）班…下部尿路機能障害に関する幅広い対象疾患に対して、日常での



北海道大学大学院医学研究外科学講座 腎泌尿器外科学分野

形成術であり、国内でもトップレベルの手術成績をあげています。低侵襲手術を旨とした腹腔鏡手術も多数手がけております。また環境省の環境科学総合推進費を獲得し、

「改善はもとより、精神的なサポートにいたるまで診療を行っています。二分脊椎患者さんの排尿管理は道内随一の患者数をフォローしており、腎機能保護はもとより、結

婚（出産にいたるまで全体的なライフステージに合わせた診療を行っています。また、保険適応となつた人工尿道括約筋の手術も紹介患者が増えています。さらに、女性の患者さんの尿失禁、骨盤臓器脱などに対しても、薬剤、手術治療を積極的に行ってまいります。

●腫瘍班…臨床的には、泌尿器腫瘍に対する手術の多くを腹腔鏡手術として実施しています。とくに、腎癌に対する腎部分切除術は困難例も含め、ほぼ全例腹腔鏡手術で実施しています。ロボット支援手術は前立腺全摘除術および腎部分切除術ともに順調に症例数を蓄積しています。腎癌・前立腺癌を中心に多くの新薬の開発治験に携わるとともに、それらを用いた臨床の治療成績も国内外の学会で報告しています。基礎研究としては、膀胱癌の転移・浸潤や腫瘍血管内皮細胞に関する研究などを実施し、その成果の多くは英文業績として報告しています。

●腎移植血管外科班…当院における腎移植、腎不全治療部門を担当し、年間二十件前後の腎移植手術以外に、血液浄化・透析の院内対応を内科腎臓グループと共同で行っています。乳幼児から高齢者に至るまでの腎不全患者に対する腎代替療法を展開しています。研究面では虚血再灌流障害、糖尿病性腎症、血液キメリズムによる移植免疫寛容、慢性拒絶反応早期発見のための免疫モニタリングやバイオマーカーの開発など幅広い研究がなされています。

●教育面では外科教育に力を注ぎ、数々のハンズオン講習会を実施、若手医師や研修医、学生に対して手術技術指導を行っています。現在は年三回程度ですが、これをさらに発展・充実させたいと考えております。これらの試みを通し、泌尿器科の魅力若手医師、学生に発信することで泌尿器科希望者の増員につながる地域医療の充実に努めるとともに、泌尿器科医療の発展に寄与できる人材を北海道の地より世界へ多数輩出したいと考えております。

ハンズオン風景



はじめに

北見赤十字病院は北海道北見市にある。昭和一〇年十一月に日本赤十字社北海道支野付牛療院として開設されました(六一床)。以後北見赤十字病院への改称、増床、新規の診療科の開設を繰り返して、昭和五十一年一月に泌尿器科が開設されました。開設当初は札幌医大より医師の派遣を受けておりましたが、平成六年一〇月に派遣元が旭川医大泌尿器外科に変更となり、現在に至っています。平成二七年十二月に築二十五・四〇年を経て老朽化した四棟の移転新築・改修工事が竣工し、新病院に生まれ変わりました。

オホーツク地域はオホー

ツク海と二八〇kmの海岸線で接しており、総面積は一〇六九一km²と全道面積の十二・八%を占め、岐阜県を上回る広さに三十一万人が暮らしていま

旭川医科大学
腎泌尿器外科学講座
～北見赤十字病院泌尿器科紹介～



海面が覆われるという他の地域には見られない特色が見られるほか、原始的な自然がそのまま残されている知床と阿寒の二つの国立公園、網走国定公園など、豊かな自然景

す。冬期間の寒さは厳しいものの、年間平均降水量は八〇〇ミリ前後と少なく、日照時間にも恵まれています。一月下旬から三月にかけて、オホーツク海特有の流水により



観に恵まれている地域です。広大な医療圏であるにも関わらず、泌尿器科に関する入院診療を行うことができない泌尿器科医療機関は少なく、外来のみ行っている医療機関を

含めても一〇か所程度と泌尿器科医師不足が深刻な地域です。北見赤十字病院泌尿器科は医師三名体制での診療が長く続き、また、平成一六年から必修化された新臨床研

公園から見た冬の南面



修制度のありを受け、一時医師二名体制での診療となりました。平成二十八年より再び医師三名体制での診療となっており、札幌や旭川への距離が遠いため、地域がん診療拠点病院、地域医療支援病院を背景とした当院の豊富な医療スタッフと充実したシステムを生かし、極力自己完結を目指しております。年間の手術件数は多少の増減はあるものの、四〇〇件強で推移しており、小児、腹腔鏡、開腹手術と幅広く取り扱っております。ダビンチは未整備であるため、ロボット手術は行えておりませんが、地域に初のダビンチ導入に向けて働きかけを行っているところと

最後に

オホーツク地域は広大な自然と毛ガニ、ホタテなどに代表される海産物、全国有数の生産量を誇る玉ねぎを含む農産物など豊富な食材が揃っている魅力ある地域です。意欲のある医学生、研修医のみならず、充実した研修生活を送ることができると自負しております。

公園から見た秋の夕景



北見赤十字病院泌尿器科



はじめに

札幌医科大学泌尿器科学講座には現在四十四名の教室員が在籍しています。そのうち二十一名が札幌医科大学に所属していますが(大学院生四人)、残りの二十三名は道内十七の関連施設で勤務しています。また常勤のいない施設も多数あり、外来診療を行うために札幌医科大学より定期的に教室員が出張しています。北海道は広大な土地であり、北は旭川市、東は根室市、南は函館市まで泌尿器科診療のニーズがあります。しかし、これらのすべてにはこたえられていない状況です。そのため常勤医がいる関連施設と、常勤医のいない関連施設の間で緊密に連携を取り合いながら、診療をおこなっています。

道南地区にある函館五稜郭病院泌尿器科

道南地区には現在四十四名の教室員が在籍しています。そのうち二十一名が札幌医科大学に所属していますが(大学院生四人)、残りの二十三名は道内十七の関連施設で勤務しています。また常勤のいない施設も多数あり、外来診療を行うために札幌医科大学より定期的に教室員が出張しています。北海道は広大な土地であり、北は旭川市、東は根室市、南は函館市まで泌尿器科診療のニーズがあります。しかし、これらのすべてにはこたえられていない状況です。そのため常勤医がいる関連施設と、常勤医のいない関連施設の間で緊密に連携を取り合いながら、診療をおこなっています。

腫瘍手術だけではなくグリーンライトレーザーを用いた前立腺肥大症の手術、尿路結石に対するレーザー治療など良性疾患に対する手術など多岐にわたる手術を行っています。様々な泌尿器疾患に対応できることから、

札幌医科大学医学部
泌尿器科学講座



函館市のみならず道南全域から患者が紹介されています。手術件数は全体で年間約千例となっています。同院での治療後は、八雲町立病院など常勤のいない当講座の関連施設で患者の経過観察を

行い、なるべく患者の通院の負担を減らすようにしています。函館五稜郭病院には当講座から後期研修医、泌尿器科専門医、泌尿器科指導医が出張しています。当講座OBの泌尿器科医二人が、豊富な症例の中から各教室員のレベルに合わせた指導を行っています。教室員は大病院では経験できないような症例も、指導医の下で執刀医として診療を行い、泌尿器科医として知識と技術を身に付けるべく研鑽をつんでいます。

道北の空知地方の砂川市立病院泌尿器科

道北の空知地方の砂川市立病院泌尿器科は四人の泌尿器科医が勤務しています。同院も函館五稜郭病院と同様に、空知地区全域から多数の患者が紹介され、腹腔鏡手術を始めとした多数の手術を行っています。同院では慢性腎不全に対する治療も行っており、血液透析のみならず腹膜透析や腎臓移植を行っています。後期研修医は指導医の指導のもとで、末期腎不全の管理、腎移植患

者に対する腎生検など移植前後の治療を行い慢性腎不全全般の診療を学んでいます。

上記で紹介した病院以外にも多数の関連病院があります。すべての関連病院において指導に当たる泌尿器科指導医は研修医に対して親身になって指導を行っています。

当講座では、新専門医制度においてプログラム研修委員会を設置が必須化されるはるか以前から、大病院の教員と関連病院の指導医が定期的に集まり、後期研修医に対する教育について検討・議論する会議を行っています。会議の場では、専門医取得に必要な手術件数の実績の確認を個々の後期研修医ごとに行ったり、後期研修医に対する教育で改善すべき点について話し合いを行っています。改善点については柔軟に対応し、後期研修医にとってよりよい環境を整えられるよう努力しています。

当講座の舛森教授をはじめ関連病院を含めた指導医は、北海道の大地と同様に

様におおらかです。当講座に興味を持たれた研修医の先生、医学生の皆さんには大学、関連病院にぜひ一度見学に来ていただきたく存じます。温かくお迎えいたします。お知らせですが平成二十九年三月十八日から十九日まで当講座のGID(同一性障害)学会第十九回研究大会・総会が札幌を主催します。性同一性障害に興味のある研修医の先生、医学生がいましたら是非ご参加ください。当講座教室員一同歓迎いたします。

研修医の先生、医学生の皆さん、ぜひ一度見学に来ていただきたく存じます。温かくお迎えいたします。



函館五稜郭病院 泌尿器科スタッフ



砂川市立病院 泌尿器科スタッフ

教室紹介

弘前大学泌尿器科学講座は昭和三十七年(一九六二年)に開設され、今年で開講五十二年目を迎えます。講座には、四十二人(社会人大学院生含む)の教室員が在籍しております。二〇〇四年八月に就任した大山力教授を中心に、診療・研究・教育・人間性、すべてにバランスのとれた医師の育成を目標として取り組んでいます。女性医師が働きやすい環境作りも目標の一つとして取り組み、現在まで四名の女性医師が入局致しました。また、「よく学び、よく遊べ」をモットーに診療・研究ばかりでなく、休日には各々自分の時間を楽しくめるように工夫をしております。

診療

泌尿器科では腎・尿路・男性生殖器及び副腎などの後腹膜臓器の疾患を扱います。その対象とする患者さんは老若男女を問わず、さ

らに診療内容は悪性、良性腫瘍、排尿障害、神経疾患、男性不妊症、勃起障害、女性泌尿器科、腎移植、尿路感染症、先天奇形、内分泌

ネジメントするのが、我々泌尿器科医の仕事です。近年、前立腺癌が急増しており、様々な治療方法が存在します。卒後年数や技量に

確実に誰でもできる前立腺全摘術の確立を目指しています。二〇一一年七月にダヴィンチシステムを導入し、現在はダヴィンチの

弘前大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座



代謝疾患、尿路結石症など広範囲にわたっています。これらの疾患の診断から治療、経過観察までをトータルマ

合わせて段階的に小手術や経尿道的手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術を経験していきます。当科では、安全・

5.5の二台が稼働しており、年間一〇〇件以上のロボット支援前立腺全摘術を行っています。出来るだけ若いうちか

ら手術をする機会を持つてもらうため、専門医を取得した後は、積極的にダヴィンチ手術を行ってもらうております。浸潤性膀胱癌に対し、膀胱全摘術後の尿路変更として、以前よりC字回腸新膀胱造設術を行ってきました。ロボット支援手術にも導入し、ロボット支援膀胱全摘術後及びC字回腸新膀胱造設術をすべて体内で行い、良好な成績を治めています。

研究

スを行い、診断から手術、術後管理まで合同で行っています。消化器外科や血管外科とも連携し手術を行い、お互いの手技を吸収し合っています。このような経験は、必ずや自身自身のスキルアップに役立つはずですよ。

また、当科の特徴として、病理カンファレンスと診療科の垣根を越えた連携が挙げられます。毎週行われる病理カンファレンスでは、病理医とすべての手術症例のレビューを行います。自分の行った症例のレビューをすることで自分のスキルが上がり、患者さんへのフィードバックも可能となります。副腎腫瘍に関しては内分泌内科と、腎移植に関しては腎臓内科と合同カンファレン

にも積極的に参加していただきます。研修医には、必ず参加して頂きます。世界の舞台を身をもって体感し、羽ばたいていくためのステップとしてもらいます。勿論観光も楽しみみとなっています。

メッセージ

青森は、海あり山あり、おいしい食材の宝庫です。しかし、泌尿器科医はまだ不足しています。泌尿器科は非常にバラエティに富んだジェネラリストになれる科です。是非、泌尿器科と一緒にやりましょう。弘前大学の泌尿器科に興味のある方は是非見学にいらしてください。

研究面では糖鎖の研究を行っています。細胞表面に発現する糖鎖は、発癌、細胞の増殖、癌の転移・浸潤、発生と分化、感染、受精、免疫など様々な生命現象に重要な役割を果たしています。このような多彩な機能を持つ糖鎖の構造と役割を研究するのが、糖鎖生物学です。癌や移植など泌尿器科学と広い研究分野を共有しています。大学院の糖鎖研究をさらに深めたいなどの希望があれば、国内外への留学も可能です。また、学会活動では国内のみならず、米国泌尿器科学会や欧州泌尿器科学会など海外学会

医局のご紹介

秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座は、県内外に多くの関連病院を有しており、平成二十八年現在で常勤医が勤務している病院数は十八です。秋田県内では地域の中核となる総合病院のほとんど（市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、由利組合総合病院、大曲厚生医療センター、平鹿総合病院、秋田厚生医療センター、中通病院など）が関連病院であり、県外では青森県（十和田市立中央病院）、岩手県（岩手県立胆沢病院、盛岡友愛病院）、茨城県（国立水戸医療センター）にも関連病院を有しています。橙色で示した病院には泌尿器科医が三人以上常勤で勤務しているため、各病院でほぼすべての泌尿器科手術を行うことが出来ます。

附属病院では

泌尿器癌治療（手術、抗癌剤治療、分子標的治療など）、ロボット支援手術・腹腔鏡手術などの低侵襲手術、腎移植を三本柱として診療にあたっておりますが、

泌尿器科一般診療は勿論のこと、市立秋田総合病院では尿路結石治療や女性泌尿器科、秋田赤十字病院では小児泌尿器科、中通病院では透析療法、といったように各病院に得意分野があり、**関連病院を廻ること**で

秋田大学大学院医学系研究科

腎泌尿器科学講座



が導入されており、岩手県立胆沢病院では生体腎移植も行っております。さらに、関連施設として京都大学医学部附属病院、天理大学相談所病院、大阪赤十字病院などの病院とも連携研修を受けることができます。当医局では各々が関連病院や関連施設で習得した技術、知識を別の赴任先で他の医師にためらわずにフィードバックできる文化と伝統があり、そのことが当医局全体の医療レベル向上に繋がっているものと確信しております。

泌尿器科全体を幅広くカバーすることが出来る様になります。秋田大学医学部附属病院以外にも岩手県立胆沢病院、国立水戸医療センターで手術支援ロボットDa Vinci

女性泌尿器科医

出来、同一プロトコルで症例数を集積することが出来ております。また、秋田大学大学院医

学系研究科 腎泌尿器科学講座には、関連病院含め現在五人の女性泌尿器科医が在籍しておりますが、平成二十九年度、平成三〇年度にさらに一名ずつ女性医師が入局予定ですが、それぞれが女性泌尿器科医のキャリアパスが円滑となるように配慮しており、またライフ



平成28年度 秋田大学医学部泌尿器科同窓会「虚の会」

平成28年7月9日 於 秋田キャッスルホテル

泌尿器科 同窓会

スタイルに合った、希望に応じた研修、勤務形態を可能にしております。

女性なのはどうして泌尿器科?とよく聞かれることがありますが。今回は私が泌尿器科を選んだ理由や女性泌尿器科の魅力についてご説明させていただきます。

入局のきっかけ

ちようど研修医一年目を終えた頃に、今までで一番やりがいを感じたのはどんな時だろうと思いついてみたところ、真っ先に思いついたのは、手術が終わったとき「自分のこの手がこの患者さんの病気を治す一助になれたんだなあ」と実感できた瞬間でした。大変なことは多いだろうけれど、この手で病氣と闘っていける外科系で頑張ってみたいという思いが強くなりました。一方で患者さんの話を聞いたり、検査を組み立てたり、診断で悩んだりといった内科的な診療もやりたい思いもあったため、なかなか専門が決まらずにいたのですが、二年目の四月に泌尿器科を回り、内科も外科もでき、それでいて全身的な管理もできるなんて他にこんな魅力的な科はない!と思ひ泌尿器科医の道を決心しました。

女性医師としてのキャリアパス

そんな壮大な夢に向かって走り始めた矢先、研修医二年目で結婚・出産をした私は、それまで漠然としか考えていなかった家庭と仕事の両立という壁にぶつかりました。

親身に私のキャリアプランの相談に応じてくださり、子供を实家に預けながらなんとか産後二か月半で復帰することができました。仕事と育児の両立には周囲の理解が不可欠です。その点でも医局の理解が得られたというのは大変恵

**岩手医科大学 泌尿器科学講座
~岩手県立中部病院泌尿器科の紹介~**



医師の仕事が二十四時間体制であるのに加え、育児も年中無休で自分にはかできない大切な役割。しかし負けず嫌いな女医の特性もあり、絶対にどちらにも妥協したくないというのが本音でした。とても悩みましたが、医局の先生方が

まれたことだと思えますので今後も頑張っていきたいです。
女性泌尿器科の魅力、中核病院でのやりがい
ある日の外来で、女性の患者さんが恐る恐る私に相談に来てくださったことがありました。尿失禁で悩むあまりに



引きこもりがちで不眠症にもなってしまう、精神科に行くか泌尿器科に行くか迷った結果、女性の医師に相談できると思いついて受診したそうです。診察後、骨盤底筋体操の指導と薬を処方したのですが、一か月後には尿失禁も良くなり、夜も眠れるようになったから精神科の予約はキャンセルしました!と、見違えるほど明るい表情に変わって来られました。決して特別な難しい治療をしたわけではないのですが、私が女性泌尿器科医だったからこの方は一歩を踏み出すことができ、治療につながったのかと思うと、これほど嬉しく、やりがいを感じたことはありませんでした。女性が少ない診療科ではあり

ますが、だからこそ自分を必要としている患者さんもいるのだと思います。

私が勤務している岩手県立中部病院は展勝地の桜で有名な北上市に位置しています。

Common diseaseから癌診療まで幅広く経験でき、また

地域の患者さんとの距離が近いことが魅力です。患者さんが親しみを持って相談してくれるので、私も精一杯その気持ちに応えたいという思いが自然にあふれ、それが今の私

の原動力になっています。進路に迷っている皆さん、泌尿器科は、男性医師はもちろん、女性医師にとっても働きやすく、かつ必要とされている診療科です。やりがいを感じながら楽しく仕事も育児もできる泌尿器科では是非一緒に働きましょう。

岩手医科大学泌尿器科学講座
神崎 成子



教室概要

泌尿生殖器悪性腫瘍、副腎腫瘍、尿路結石症、前立腺肥大症、尿路感染症、排尿障害、性機能障害、不妊など幅広い疾患を扱っています。東北大学病院では、前立腺癌を筆頭に男性癌の二〇%が泌尿器癌となり、おり、今や泌尿器科は癌診療で最もメジャーな診療科です。泌尿器科手術の大きな特徴はOTを重視した低侵襲治療です。当科の手術の九〇%以上がロボット、腹腔鏡、尿路内視鏡手術などの低侵襲手術となっています。人口の高齢化に伴い、泌尿器癌だけでなく排尿障害、尿路感染症など泌尿器疾患は増加の一途であり、泌尿器科医へのニーズが高まっています。これにこたえる高度な診療能力を有する泌尿器科医の育成をおこなっています。関連施設が密に連携して研修プログラムを整備し、豊かな人間性を涵養しつつ優れた泌尿器科専門医を育成することを目指しています。さらに専門医取得後も広範な泌尿器科領域をカバーする生涯教育の充

実を図っています。

(荒井陽一)

診療

泌尿器癌手術では、従来の開放手術から、ロボット支援手術・腹腔鏡手術が大部分を占めるようになってきました。とくにロボット支援手術は、前立腺癌と腎癌への保険適応から、急速に拡大しており、当講座で最も多い手術法になりました。当講座では癌治療を根本とし、機能温存にも積極的に取り組んで治療しております。

外来診療においては、排尿障害外来と不妊外来の専門外来を開設し、さらなる専門診療を行っています。当講座の排尿障害外来の特徴は、多くの二分脊椎患者さんを長期に診療している点にあります。先天性の疾



患に伴う排尿障害は排尿管理が患者さんの予後を決める場合も多く、患者さんと一生を共にする気持ちで日々の診療に努めております。

(川守田直樹)

東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座泌尿器科学分野



そのような日常臨床の疑問を解決する手段としてあるのが臨床研究です。泌尿器科ではまだ解決されていない課題がたくさんあり、様々な臨床研究が行われていま

城、東北地方、さらには全国組織の様々な研究を主導しており、身近な臨床研究から得られた成果を進展させ、将来的には教科書を変えようとする研究を行うことも可能です。(三塚浩)

②基礎研究

当医局では、大学院生を主体に基礎研究を行っています。約三〇年の歴史がある腎癌糖鎖抗原の研究や、教室開設以来行われている排尿研究、中でも『くしゃみラットモデル』を用いた腹圧性尿失禁に対するメカニズム解明などの分野で成果を挙げてきました。さらに最近では、産学連携体制による新規手術用治療器の開発や、内分泌環境と排尿メカニズムの関連性の研究、非翻訳RNAの腎癌における役割の研究、新規バイオマーカーの探索など、現代・次世代を見据えた幅広い分野での研究を行っています。指導医が一貫して指導しますので、動物モデルの作成、分子生物学的検査などの実際の手技、研究発表や論文作成に関しても、充実した教育を受けることができます。(神山佳展)

新人の声



私は、東北大学泌尿器科医局の新人ですが、現在は後期研修医として忙しくも充実した日々を過ごしています。東北大学泌尿器科の魅力として、先輩方の熱いご指導と、他科と密接に連携したカンファレンスがあります。日々厳しいながらも臨床能力を磨いていけます。また新人が参加するイベントとして五月にアメリカ泌尿器科学会、九月にフットサル大会、十月に医局旅行などがあります。写真はフットサル大会のもので、泌尿器科の諸先輩方が多数参加されます。私も含め若手も多く臨床以外にも楽しめる要素がたくさんあり充実した生活をおくれると思います。(柘津晋久)

以上、本Newsletterは、東北大学医学部泌尿器科での診療、臨床研究、基礎研究および本年度入局した新人医師の声をご紹介いたしました。紙面の関係で当泌尿器科の全てを書き尽くすことはできませんでしたが、泌尿器科に少しでも関心をお持ちでしたら、いつでも当教室に遊びに来て下さい。実際に、我々の泌尿器科に触れることで、更なる魅力を肌で感じ取れることと思います。自由闊達に活躍するエネルギーを持つ皆さんが、当教室に集い、泌尿器科医を目指すことを期待しています。(伊藤明宏)



はじめに

山形大学医学部腎泌尿器外科学講座は、県内外の基幹病院（現在は十一関連施設）へ泌尿器科を供給する県内唯一の大学医局です。第四代目教授として土谷順彦が平成二十七年十一月一日に就任し、新たな教室がスタートしました。関連施設まで含め全体として現在四十名弱の教室員により構成されております。

当講座の専門は尿路性器腫瘍、腎移植、排尿障害、女性泌尿器疾患です。臨床面では特に腹腔鏡手術技術習得を重視して研鑽を積んでおります。ロボット支援手術システム(daVinci)による前立腺全摘術に加えて、平成二十八年度から新たに保険収載された腎部分切除術もすでに十例に達し施設基準をクリアしました（平成二十八年十一月現在）。また、ロボット支援手術や従来の腹腔鏡手術に加え、単孔式腹腔鏡手術も開始すべく準備中です。腎移植も献腎、生体腎移植を合わせて年間十件以上を維持して

います。手術の技術革新は目覚ましいですが、開放手術や経尿道的手術も泌尿器科を実践するうえで重要であることは言うまでもありません。初歩・基礎的な泌尿器科臨床技術の習得

**山形大学医学部
腎泌尿器外科学講座**



から高度な技術習得に至るまで、教室員が責任をもって指導いたします。興味ある方は、ぜひ見学だけでも気軽にいらしてください。

講座スタッフ紹介
まず紹介するのは当科の看板である**泌尿器腫瘍チーム**

△です。加藤智幸講師を筆頭に川添久助教、柴崎智宏助教、内藤整助教、櫻井俊彦助教を中心に診療と研究に日夜励んでおります。土谷教授就任以降、**腹腔鏡手術技術認定医**が三名増えて計五名に、**daVinci S 支援手術教育プログラム**修了者が二名増えて計七名となりました。さらに認定医を増やすべく、特に若手の医師に対して集中的に**手術指導**を行っており、目覚ましい技術の向上がみられています。研究面では、**骨髄由来抑制性細胞や特殊な好中球遊走蛋白について腎癌等をテーマに免疫学教室との共同研究**が現在進行中です（加藤、黒田悠太）。また米国留学を終えて帰国した内藤は、現在腎癌再発や治療反応性を予測するバイオマーカー検索に集中し研究継続する傍ら、八木真由、菅野秀典の指導も担当しています。内藤とともに研究業績を支えるのが技術員の伊藤裕美さんです。講座ラボを切り盛りし研究補助をしつつ、自らも研究者として実験し学会や論文

発表、さらには医学生や院生教育も務めます。基礎研究以外に、転移性腎癌に対する数多くの臨床研究・治療を手掛けてきたことが評価され、腎癌診療ガイドライン作成委員に当講座からの二名（加藤、内藤）が活躍しております。もう一つの看板である腎移植は、西田隼人助教と山岸敦史を中心とする**腎移植チーム**が山形県腎移植医療を支えています。定期的な生体間腎移植以外に腎移植ネットワークからの急な献腎移植ドナー情報を二十四時間体制で受け付け、県内の病院にいつ何時でも駆けつけ、献腎摘出部隊として活躍しています。平成二十八年には六年ぶりに心停止下移植と脳死移植を一件ずつ行いました。



医局事務を担当する秘書さんパワーも医局運営には不可欠で、日常の些細なことから講義資料作成と準備、時に重労働ともいえる学会準備までこなします。どんな実績や素晴らしい成果も一人では成し得えません。泌尿器科に興味のある医学生や研修医の皆さん、ぜひ

我々と一緒に泌尿器科をやりましょう。連絡お待ちしております。
（文責 医局長、一柳統）

後期研修医として働く

太田西ノ内病院の魅力

医師四年目 泌尿器科専攻二年目

星 誠二

はじめに

私は平成二十四年度に福島県立医大を卒業し、福島県内の市中病院での初期研修を経た後、平成二十六年に福島医大に入局し、後期研修医二年目として平成二十八年四月から太田西ノ内病院で勤務をしています。病院紹介というのですが、医学生、研修医の先生方が気になることは(自分もそうでしたが)、自分がどのくらいの症例を診るか、臨床、手技、手術などに関してどのような教育が受けられるかということだと思います。病棟診療、手術、外来診療、救急の四項目について、後期研修医の視点から当院の魅力を紹介いたします。

①病棟診療

太田西ノ内病院は、福島県郡山市にある一〇八九床の大きな総合病院です。泌尿器科医は私を含め四名(指導医三名、専

攻医一名)が在籍しており、平均三十〜四十名の入院患者を診療しています。手術、化学療法、感染症、緩和医療など様々な患者が入院しており学ぶことは多いですが、一チームで診療して

と経尿道的手術(TUR-P、TUR-B、TUR-P、TURB、TUL)、高位精巣摘除術、腹腔鏡下腎(尿管全)摘術、前立腺全摘術、膀胱全摘術などの手術を執刀医として経験することができました。また、

福島県立医科大学 泌尿器科学講座 ~ 関連病院 太田西ノ内病院の紹介 ~



②手術 いるので、困ったことがある。年間に相談できる環境です。年間四百件程度の手術があり、指導医の先生方も

③外来診療 救急症例も多く精索捻転や外傷後の腎摘術などの症例も経験できます。初期研修医時代はかわる機会が少ないですが、外

また珍しい症例を経験した場合は学会発表を行っていますし、週に一日は研究日をいただいで大学で実験

④救急 当院は市内で唯一の三次救急病院です。泌尿器科という緊急疾患のイメージは少ないかもしれませんが、尿管結石や包茎嵌頓、急性陰囊症といった症例から尿道損傷、膀胱損傷、腎損傷などの外傷性疾患に加え腎梗塞、ウロセプシスなど緊急を要する症例も多く、泌尿器科として治療方針を決定したり、他科の先生と連携をとったりする場合もあります。

⑤おわりに 当院は泌尿器科医としての基礎を築くうえで魅力の多い環境だと思います。泌尿器科に興味がある医学生、研修医の先生がいれば

の手法や考え方を勉強する機会をもうけており、学術的にも成長できる機会があります。



ぜひ見学に来てください。